

more loosely interwoven than the excipulum proprium, which is ca 60μ broad, colorless and densely interwoven, paraphyses coalesced, asci clavate, $47-50 \times 15\mu$ large, polysporous, spores ellipsoids, $5-5.5 \times 3-3.5\mu$ large.

Developed with butanol saturated with ammonia the acetone extract of *Acarospora gobiensis* revealed a yellow spot $R_f = \pm 0.85$, corresponding with that of *rhizocarpic acid* extracted from *Acarospora chlorophana* (cfr. Zopf, Flechtenstoffe, p. 410). This notable species was first discovered by Futterer (1895) in Gobi desert. Then the members of Sven Hedin's Expedition collected it in Chinghai and Kansu. The members of the scientific Expedition to Inner Mongolia (1943) expedited by the Takeda Research Institute in Osaka collected it in further easter region of the frontier between northern China and Inner Mongolia.

Acarospora 属の中で葉体が黄色を呈し葉体の周辺が放射状の排列をする *Epithallia* 節のものは採集家の目につき易い。例えば歐洲には *A. chlorophana* があり雲南には *A. discurrens* Zahlbr. があるが最優等品は本条に掲げた *A. gobiensis* H. Magn. であろう。本品は其種名の示す通り中央アジアのゴビ砂漠で Futterer が始めて採集し其後 Sven Hedin の遠征隊員が青海、甘肅地方に広がることを見出したが昭和18年に蒙疆を探検した武田研究所の派遣員(藤川福二郎、渡辺武)は次の諸地点で良好な標本を採集した。

内蒙古、晋北大同→孤山 (Tatung)

” 察南張家口→水母宮 (Kalgan)

” 烏蘭察布、百靈廟→厚和 (Pailimiao-Kweisui)

尚クロマトグラフィーで本種の黄色素がリゾカルブ酸であることを証明した。

○高等植物分布資料 (8) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (8)

○マルパチャルメルソウ (チョウセンチャルメルソウ) *Mitella nuda* L. 赤石山脈の北方の分脈中に位置する白岩 (シライワ) 嶽に登り、此の稀種を見出した。此の山は約 2260 m, 信州上伊那郡美和 (ミワ) 村内に在り、全山石灰岩である、産地は 1800 m 前後、コメツガ林を繞らした谷の頭に近く、コケむした石灰岩碎屑の堆積上に群生していた。これは石灰岩という点を除けば国外に於ける生育環境と同じである。時は 1958 年 8 月 4 日、既に果期も過ぎ、裂開した 1 個のさく果を有する花茎 1 本を探し得て属、種を決定した。

今日まで北海道の石狩、十勝、北見に点々と産地が分つていたのみで、本州からの報告を知らない。国外ではエニセイ川以東のシベリアから南下して朝鮮北部にまで分布し、樺太、千島、カムチャッカ、アリューシャンを飛ばしてアラスカ南部、カナダ、北米北部に産するが稀少らしい。米大陸では大体 $40^{\circ}N$ 以北であり、東亜では朝鮮北部の冠嶺峰が約 $41^{\circ}40'N$ で日本に最も近い産地と見られる。然し白岩嶽は約 $35^{\circ}50'N$ であるから、世界での南限と目し得る。本種の産は石灰岩地が古期の分布圏を温存することに 1 例を加えると共に、“信州に隔離分布をする東亜大陸北部の要素”にも追加さるべきものである。(水島正美)